

APAQG珠海会議について

1. はじめに

2016年9月8日～9日に中華人民共和国 珠海市にて、APAQG (Asia-Pacific Aerospace Quality Group) 珠海会議が開催された。APAQG はIAQG (International Aerospace Quality Group (国際航空宇宙品質グループ)) のアジア・太平洋地域組織であり、JAQG (Japanese Aerospace Quality Group (航空宇宙品質センター)) もその一員としてIAQGの活動戦略目標に対応したAPAQG内の活動方針決定やIAQGへの意見吸い上げに対してリーダーシップを発揮している。以下に今回の会議について報告する。

2. 会議の概要

- (1) 今回のAPAQG珠海会議には、アジア太平洋地域の航空宇宙関係28組織から59名が参加した。今回のAPAQG会議では、インドの2社を新APAQG会員メンバーとして迎えることができ、APAQG活動を拡大する有意義な会議であった。
- (2) 評議会ではIAQGの最新の活動状況（規格要求、国際航空宇宙認証制度管理、製品及

びサプライチェーン改善、国際スペースフォーラム、防衛当局関係強化、MRO関係成長戦略) についての情報の共有を図るとともに、今後のAPAQG活動方針を確認した。
(3) 2017年秋のAPAQG会議をタイで開催することが決定された。

APAQG珠海会議の参加国、参加組織は以下の通りである。

- 日本：MHI, KHI, FHI, IHI, 海外物産, SJAC
- 中国：AVIC, COMAC, HEAI, Boeing Tianjin Composites, AEAC
- 韓国：KAI, KAL, Hanwha Techwin, LIG Nex1, LRQA, Hanwa Corporation/Machinery, KAIA
- シンガポール：DSO National Laboratories, Liebherr-Singapore Pte Ltd, UTC, Rolls Royce, SAFRAN ELECTONICS ASIA Pte Ltd
- フィリピン：Moog
- タイ：Triumph Aviation Services Asia
- インド：Hindustan Aeronautics Limited (HAL), SLN Technologies Pvt. Ltd



評議会の様子



評議会の様子



評議会後の集合写真（APAQGメンバー）

3. 評議会 会議内容

(a) 主要な審議結果

評議会での主要な審議結果は以下の通りである。

- ・ インドのHAL、SLN Technologies 社の入会が承認された。
- ・ APAQGの2017年予算案が承認された。
- ・ APAQG 運営細則（PROCEDURE）の改訂が承認された。
- ・ 2017年春のAPAQG会議は、3月8日～9日にフィリッピン（マニラ市）で開催することが確認された。

- ・ 2017年秋のAPAQG会議開催国について、タイ国での開催が確定した。

(b) 各国のステータス報告

評議会での各国のステータス報告は以下の通りである。

日本：JAQG幹事長（嶋貫 雅一（FHI）（敬称略））より、JAQG活動状況が報告された。

JIS Q 9100規格の認証取得会社は635社、JAQGメンバーは417社（2016年7月末時点）。概略年20%の増加率で

伸びている。

2016年度の活動としては、

- ・ 2013-2018年の活動計画に基づき、JAQG活動の促進を図った
- ・ JAQGの活動については、JAQGメンバーの9割が満足しているとのアンケート結果が得られた
- ・ 強固なQMS構築に関しては、日本起案の6ガイダンス文書のうち、IAQG SCMHとして4文書の発行準備が計画通りに進められている（2文書は発行済）
- ・ ステークホルダーとの協力関係を強化、継続している
- ・ JAXA殿の品質要求事項にJIS Q 9100が取りこまれた
- ・ JIS Q 9100及び12のSJAC規格の発行を2017年3月までに計画している

との報告があった。



嶋貴JAQG幹事長（FHI）

中国：Mr. XU Jianqiang（COMAC）からCAQG（China Aerospace Quality Group）の活動状況が報告された。CAQGは正会員11社、一般会員は57社で前回の名古屋会議からメンバーの増加はない。

CAQGは2016年は、

- ・ CAQG憲章の改定

- ・ IAQG規格の調査
- ・ CAQG広報活動の強化
- ・ CAQG ワーキンググループ活動の促進

に焦点をあて活動しているとの報告があった。

また、AVICからエンジン部門がスピンオフして設立されたAECC社がCAQGのメンバーに加入した。

韓国：Mr. Cho Sung kil（KAI）より、自国企業の認証は、主にAS9100/9110/9120によっており、韓国のAS9100認証取得会社は384社（半年で37社増加）、また、AS9110とAS9120認証取得会社はそれぞれ20社、8社となっていることが報告された。KAIA（韓国航空宇宙工業会）のもと2016年2月に設立されたKAQG（Korea Aerospace Quality Group）の活動状況、及び2018年秋のIAQG釜山会議の準備状況が報告された。

シンガポール：Mr. Jeffrey Ho（Rolls Royce）より、シンガポール国内の認証状況は、AS9100認証取得会社は119社、AS9110とAS9120認証取得会社はそれぞれ16社、42社と増加していること、SAQG（Singapore Aerospace Quality Group）のメンバーも1名増え、2016年6月、7月にそれぞれ会議を開催したことが報告された。

(c) IAQG戦略検討ワーキンググループ傘下の分科会の活動報告

評議会では、各分科会の個別報告が行われた。（ ）内は報告者（敬称略）である。

このセッションはIAQG会議に参加してい

ないAPAQGメンバーに最新のIAQGの情報を提供し、IAQG活動の成果を共有するという側面を持っている。今回は、9100シリーズ規格の発行状況、及び2016年10月に開催予定のIAQGマイアミ会議での活動計画の報告がなされた。

規格要求分科会

(白井 達矢 IAQG Requirementチームの
APAQGリーダー (KHI))



白井氏 (KHI)

IAQG各規格の現況に関する概略説明に続いて、主な規格の改正状況については、それぞれの規格チームのSDR (Sector Document Representative) から報告がなされた。

- ・9100規格改正状況 (首藤 寛9100 チーム
SDR (MHI))



首藤氏 (MHI)

- ・9146規格改正状況 (首藤 寛9146チーム
メンバー (MHI))
- ・9136規格改正状況 (渡邊 靖9136チーム
SDR (MHI))
- ・9147規格改正状況 (Liu Haibo 9147チ
ーム SDR (COMAC))

製品及びサプライチェーン分科会

(渡邊 靖IAQG PSCIチームのAPAQGリー
ダー (MHI))

IAQG PSCI (Product & Supply Chain Improvement) チームの活動として、IAQG SCMH文書が2016年に新たに1点発行され、3点が発行目前、5点が作業中であるとの報告がなされた。

(このうち、3点はJAQG起案のガイダンス文書がIAQG SCMH文書として発行されるものである。)

また、「IAQG重点項目に対するSCMH及び規格の開発計画検討」、「9100シリーズ規格の活用レベル向上」など8つのIAQG PSCIチームの今年の活動計画・活動実績についての報告もなされた。



渡邊氏 (MHI)

国際スペースフォーラム

(柳川 祐輝IAQG スペースフォーラムの
APAQGリーダー (MHI))

IAQG シンガポール会議でのスペース

フォーラム活動概要紹介、2016年～2020年までの5か年活動計画及び2016年活動状況が報告された。



柳川氏 (MHI)

防衛当局関係強化分科会
(朝倉 崇IAQG Defense TeamのAPAQGリーダー (IHI))

IAQG ディフェンス チームの活動として、各セクターの活動概要が報告された。



朝倉氏 (IHI)

MRO (Maintenance, Repair and Overhaul)
関係成長戦略

(Mr. David TAN (IAQG MRO チームの
APAQG リーダー (UTC))

IAQG 9110 : 2016の作成状況、及び今後の
IAQG MROワーキンググループの活動計画に
関する報告がなされた。



Mr. David Tan (UTC)

OPMTチーム活動報告

(福本 克治 IAQG OPMTのAPAQGリーダー
(KHI))

IAQG OPMT 各セクターの活動状況、
9100/9110/9120 : 2016規格の移行計画、次世
代OASIS (Online Aerospace Supplier
Information System) データベース開発状況の
報告がなされた。



福本氏 (KHI)

(d) その他のトピックスの紹介

以下のトピックスが紹介された。

APAQGプロモーション活動

(北森 直樹 APAQGセクター リーダー (KHI))

2016年2月にインド バンガロール市で開
催したAPAQGセミナーの成果として、今回
インドから2社がAPAQGメンバーとして活動

に参加することとなった。次回のAPAQGセミナーとして、2016年11月フィリッピン マニラ市で開催されるAPRSF-23（アジア・太平洋地域宇宙機関会議；Asia-Pacific Regional Space Agency Forum）に合わせ、2016年11月18日に開催する計画であることが発表された。



北森氏 (KHI)

新APAQGメンバー紹介

インドの SLN Technologies社とHAL社の2社が新メンバーとして承認された。



Mr. Mohammad Ali (SLN Technologies)



Mr. Razack (HAL)
新メンバー紹介

2017年春 APAQGマニラ会議についての紹介



Mr. Subramanya Bhat (Moog)

工場訪問

会議終了後、APAQGメンバーでAVIC珠海工場を訪問した。

4. おわりに

IAQGは、世界共通の航空宇宙品質マネジメントシステム規格（9100規格）を初めとする関連規格の制定、9100規格認証制度の維持に加え、“On Time, On-Quality Delivery (OTOQD)” を効率的に達成することを目標に活動を展開している。

アジア太平洋地域のIAQG活動は長年日本がリードしてきたが、ここ数年で中国/

CAQG、シンガポール/SAQG、に続き韓国/KAQGが設立される等、アジア各国の活動も活性化して来ている。その成果が認められ、IAQG 評議会 での投票権の割り当てが6社⇒7社となった。IAQGの中で、アジア太平洋地域の発言力を増して行くためには、APAQG活動を更に活発化させ、多くのアジア太平洋

地域のメンバーが継続的にAPAQG会議並びにIAQG会議に参加することが重要である。

今後ともJAQGは、APAQGのリーダーとしてAPAQG活動を牽引し、アジア・太平洋地区の意見としてIAQGに提言する活動を推進する所存である。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター 事務局 部長 前畑 貴芳〕